

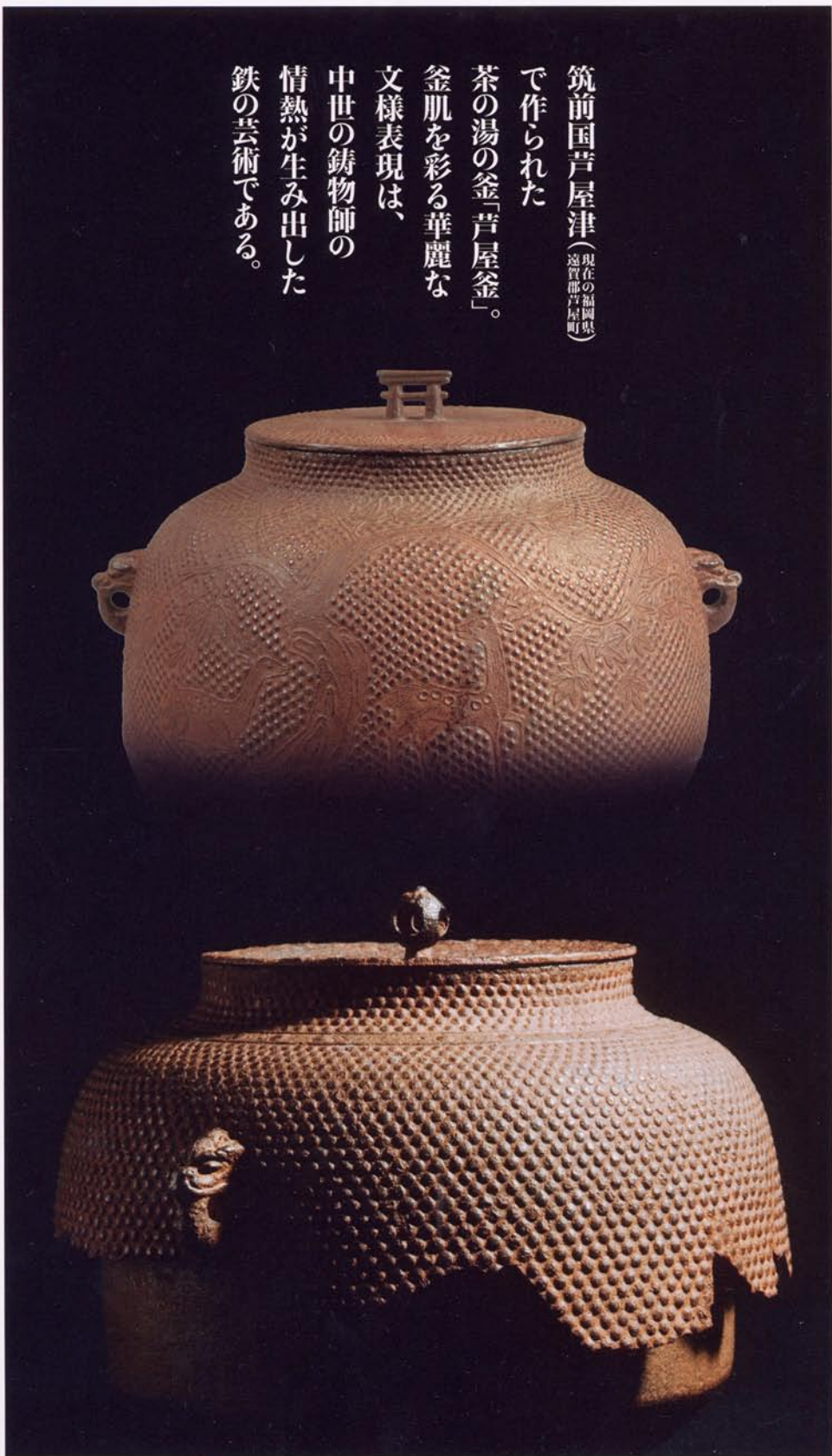
芦屋釜の名品

筑前釜の里が生んだ鉄の芸術

二〇〇八年一月二日水——二月十一日祝

●休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌日) ●開館時間 午前十時—午後六時 ●入館料 一般二〇〇〇円(八〇〇円) / 学生八〇〇円(六〇〇円) (内は二〇名以上の団体料金)
 ●次回展示 春季特別展「源氏絵と雅の系譜」二〇〇八年二月十六日(土)—四月十三日(日)

HEART OF IRON MIND OF TEA:
 CLASSIC KETTLES FROM ASHIYA.
 2nd January through 11th February, 2008
 Closed every Monday
 Museum hours 10:00A.M.—6:00P.M.
 Ten minutes walk from Higashiyama sta.
 Tozai subway line
 HOSOMI MUSEUM



筑前国芦屋津(現在の福岡県遠賀郡芦屋町)
 で作られた
 茶の湯の釜「芦屋釜」。
 釜肌を彩る華麗な
 文様表現は、
 中世の鋳物師の
 情熱が生み出した
 鉄の芸術である。

●主催 細見美術館 / 五島美術館 / 日本経済新聞社 ●後援 文化庁 ●協力 福岡県芦屋町 / (株)淡交社

会期中のイベント *すべて有料・事前申し込み制

古香庵茶会 二〇〇八年二月九日(土)、十日(日)

アートキューブレクチャー

イベントの詳細については、ホームページにて随時公開

URL = <http://www.emuseum.or.jp/> お問合せ・お申込みは細見美術館まで

細見美術館

地下鉄東西線「東山」駅下車 徒歩二〇分 電話(〇七五) 七五二一五五五

- 鱈文真形釜
- 香炉釜
- 霰地松梅図真形釜
- 十二面観音図香炉釜
- 果座広口釜
- ★ 無地真形釜
- 無地平釜

- 霰地真形釜
- 霰地真形釜
- 霰地真形釜
- 霰地小真形釜
- 七宝文真形釜
- 輪文真形釜
- 亀甲文真形釜
- 梅花皮文真形釜
- 真形釜

- 浜松図真形釜
- 浜松図真形釜
- 浜松図真形釜
- 松林波貝図真形釜
- 住吉図真形釜
- 住吉図真形釜
- 獅子牡丹図真形釜
- 霰地楓鹿図真形釜
- 群鹿図真形釜
- 霰地遊馬図真形釜
- 遠山五匹馬図真形釜
- 楓流水鶏図真形釜
- 芦菴松鶴図真形釜
- 鳥図真形釜
- 夕顔図真形釜
- 山吹文真形釜
- 霰地松図真形釜
- 松藤図真形釜
- 松竹梅蓮池図真形釜
- 松竹梅藤図真形釜
- 松竹図真形釜
- 梅竹図真形釜
- 桜柳図真形釜
- 霰地窓松竹梅図真形釜
- 霰地窓松竹梅竹図真形釜
- 越前芦屋竹椿図真形釜
- 越前芦屋竹図真形釜
- 伊勢芦屋梅図真形釜
- 伊勢芦屋松図真形釜

- 龍宝山鉄風炉
- 鉄風炉
- 鉄風炉
- 茶釜下図

- 重要美術品
- 重要文化財

金屋遺跡出土芦屋真形釜銅型

重要文化財 芦屋霰地松梅図真形釜
東京・根津美術館蔵



芦屋霰地真形釜
東京・五島美術館蔵



芦屋獅子牡丹図真形釜
東京・五島美術館蔵



重要文化財 芦屋楓流水鶏図真形釜
福岡・九州国立博物館蔵



筑前国芦屋津（現在の福岡県遠賀郡芦屋町）で作られた茶の湯釜「芦屋釜」。釜肌を彩る華麗な文様表現は、中世の鋳物師の情熱が生み出した鉄の芸術である。

芦屋釜は、茶の湯釜として最も古い歴史を誇る。釜肌には浜松図をはじめ、霞や亀甲文のほか、躍動美にあふれる馬や鹿などの文様が表現され大きな特徴となっている。芦屋釜は、栃木県佐

重要文化財 芦屋無地真形釜
京都・相国寺蔵



野市の「天明釜」と並び、その存在は現在に至るまでつとに知られ、重要文化財に指定されている九点の茶の湯釜の内、八点までが芦屋釜である。五島美術館と細見美術館が共同企画した今回の展覧会では、重要文化財七点を含む芦屋釜約五〇点を集めたほか、参考として越前芦屋・伊勢芦屋の作品、鉄風炉、下絵などを加えた。ここでは、とくに芦屋釜を、作り手ではなく使う側、鑑賞・研究する立場から見直そうとするものである。ことに平成二十年に

重要文化財 芦屋浜松図真形釜
東京国立博物館蔵



開館十周年を迎える細見美術館は、そのコレクションの礎を築いた初代細見古香庵（一九〇一―一九七九）が、芦屋釜の蒐集・研究に大変な情熱を傾け、新しい茶の湯釜の研究と美術品としての周知・普及に多大な功績を残した。この展覧会を機にさらなる美術館活動の歩みをはじめようとするものである。茶会を開くことを「釜を掛ける」とい

重要文化財 芦屋霰地楓鹿図真形釜
京都・細見美術館蔵



年代、制作技術などの、金工品として美術史・工芸史・金工史および茶道史からの研究が必ずしも進んでいるとはいえない。そこで本展では各品を多く集め、生産地から近年の発掘成果を踏まえた考古学、美術史、茶道史のそれぞれ視点から、芦屋釜を知るうえでの基本と茶道具としての魅力を再確認しようと試みた。芦屋釜がすぐれた鉄の芸術品であることを、本展の開催によりあらためて広く伝えようとするものである（期間中、一部展示替があります）。

芦屋松藤図真形釜
京都・細見美術館蔵



細見美術館

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 〒606-8342
TEL=075-752-5555
URL=http://www.emuseum.or.jp/



●主催＝細見美術館／五島美術館／日本経済新聞社 ●後援＝文化庁

●協力＝福岡県芦屋町／(株)淡交社

●展覧会期間＝2008年1月2日[水]—2月11日[祝]

●休館日＝毎週月曜日(祝日の場合、翌日)

●開館時間＝午前10時—午後6時

●入館料＝一般1000円(800円)／学生800円(600円)＊()20名以上の団体料金

●交通＝市バス「東山二条」下車 徒歩3分

地下鉄東西線「東山」駅下車 徒歩10分

※本紙ご提示により、4名様まで、本展観覧料200円引きとなります。